さんけん新聞

発行
NPO法人
三段峡―太田川
流域研究会
（代表・本宮炎）

〒731－3813
広島県山県郡
安芸太田町
柴木1734
090-3421-3046
◇
https://sanken-hiroshima.org/

ひろしま里山グッドアワード 一般投票結果　557票 大差でトップ

「ひろしま里山グッドアワード」（県中山間地域振興課主幹）の一般投票が2月21日に締め切られ、さんけんは557票を獲得、204通のメッセージが寄せられ2位以下に大差をつけた。3月28日の審査で「さとやま未来大賞」が決まる。大賞に選ばれるとプロモーションに使える映像制作などの特典がある。

来年度事業 大枠決まる　新規・継続多彩に展開

来年度実施する事業計画の打ち合わせを二月、各団体と相次いで開いて内容や日程を決めた。昨年から協議してきた新規の西中国山地国定公園指定五十周年記念事業のほか、大学や企業などとの継続事業をバージョンアップして展開する。

国定公園指定五十周年

西中国山地国定公園指定五十周年記念事業実行委員会は、西中国山地自然史研究会、広島山岳会、広島県山岳連盟、さんけんの四団体が参加して開かれた。各団体は来年度、独自の記念イベント実施を決めた。イベントは共通ホームページなどで紹介する。

国定公園の歴史や意義を学んだり、マナー向上に取組んだりする案も出されたが、多くの人が訪れる参加しやすいイベントを開催する。

国定公園指定は一九六九年。三県にまたがり、三段峡は域内最大の特別保護地区となっている。

インバウンド

インバウンド協働事業では、広島大学中坪ゼミと進めている「三段峡ネイチャートレイル」のガイドパンフレット完成と活用方法の検討、黒淵荘での外国人対応のサポート活動を確認した。

広島駅構内でボランティアによる外国語案内をしているNPO法人ひろしまジン大学とは月一回程度、ツアーのテスト実施を決めた。安芸太田町はインバウンド促進アクションプラン策定事業に着手している。

環境教育・体験

東京海上日動とのプロジェクトは六月と八月の二回、両生類や峡谷の環境、魚をテーマに実施する。

無印良品とのコラボツアーは六月に恐羅漢キャンプ場で、七月に三段峡で「魚と泳ぐツアー」を開く。

休眠口座預金活用助成制度　「正面口の店舗活用」で応募

十年以上取引がない銀行などの休眠口座の預金を民間公益活動に活用する助成制度（金融庁）へさんけんが応募した。二月三日の公募説明会に本宮炎理事長、瀬尾淳副理事長、本宮宏美事務局長が出席し、申請の準備をしていた。

申請内容は「三段峡アウトドアミュージアム構築事業」として、三段峡正面口の店舗活用などを計画。さんけんの調査・研究情報の提供や三段峡ファンの獲得、雇用創出など狙っている。

県内の六団体が応募、二団体が採択予定。三年間で一千万円を上限に助成される。

雪山の生き物発見ツアー　恐羅漢で小屋浦小児童らと交流

二〇一八年七月の西日本豪雨災害の支援活動で交流が始まった安芸郡坂町小屋浦小学校の児童五人が、地元の子供たち三人と二月十五日、恐羅漢山で「雪山の生き物発見ツアー」を楽しんだ。

雪合戦や雪だるまづくりで歓声を上げ、熊棚やメジロの巣など生き物の気配を探し、ムラサキホコリやキンリョウソウを発見した。

生き物の講師はさんけん会員の上野吉雄さん、野外活動の指導は小林久哉副理事長が担当。広島大生二人の協力があった。

新型ウイルス感染拡大　行事相次ぎ中止

新型コロナウイルスの感染拡大で、さんけんが関係している「ひろしまはなのわ2020」の勉強会、「都市緑化フェア」の会議など二月の行事が中止された。さんけんは三月に予定していた「鄙～雛結歩き」と「あきおおたの100人」を延期した。

一口メモ

▼僅か七年

一九一八年発行の広島県山県郡写真帳で三段滝は、三段龍頭滝と紹介されている。三段峡の名称はまだない。

二五年に名勝指定され、翌年発行の写真帳には名勝指定の記述と景勝地が数多く掲載されている。僅か七年、名もない谷を世に送り出した熊南峰らの業績の大きさを改めて思う。

南峰と歩く ㉛　柴堰（しばぜき）

大石磊々

柴堰は長瀞から上流へ二百㍍、水梨口からは下流へ七百㍍の所。熊南峰は「瀬戸のように大石磊々たる間を激流が走っている。道が開けぬ頃には是非共ここを渡渉せねばならなかったので、一名『縦渡り』といって随分通行人を苦しめた難所であった」と記している。

■雑木や枝で堰組む

五郎堰の回（二〇一九年四月号）で触れたが、「堰」と名の付く所は木流しに由来するらしい。ここは柴。つまり雑木や小枝を組んで堰き止め、それを一気に崩して流材していたと考えられる。材料になる雑木は現地周辺で調達していたはずだ。

近代以降、開発の波から景勝地を守るため、大正期に名勝指定制度が設けられ、現状変更が厳しく制限された。自然破壊を防ぐ点では有効だが、全く手を加えないのも問題がある。

■人と松　切れぬ間柄

日本的な景観を構成する代表的樹種は松と言っていい。痩せ地に強く、いち早く成長するが、他の樹木が育つと負けてしまう陽樹である。松林を保つには柴刈りなど人の手が必要になる。

松は主に岩峰上に見られる。人為的影響はなく、他の樹種の侵入もない天然林である。ただし、里山で増やした松の種が飛んで来たと考えれば、人と自然との関わりの中で生まれた景観とも言える。（松尾　俊孝）

さとやま未来大賞受賞　この人

河野　弥生さん

認定ＮＰＯ法人西中国山地自然史研究会の事務局を担当。2015年には三段峡憲章策定委員会に参加し、さんけん発足に関わった。着物をリメイクしたもんぺを着るグループ「もんぺる」の代表。「さとやま未来大賞2017inひろしま」で大賞に輝いた。芸北在住。

以前、両親と秋の三段峡を散策したが、最も感動したのは「歩く会」に参加した際、女夫淵の岩の上で飲んだお抹茶。「芸北と三段峡とが点から線となり、出会いがあって自分のフィールドが広がった」。誰もが知る三段峡が、つながる拠点、象徴になってほしいと願う。（宏）